“東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究”成果報告書

１．実践活動・研究の名称

東日本大震災における仮設住宅の研究――仮設住宅の規模，復興計画，集団活動が住民の意識，不安感等に及ぼす影響――

２．実践活動・研究の成果

(1) グループ代表者

①氏名：水田恵三

②所属・職名：尚絅学院大学　教授

③構成メンバー（　　３　）人

氏名：　川端壮康

所属・職名：尚絅学院大学　准教授（心理学）

氏名：　池田和浩

所属・職名：尚絅学院大学　講師（心理学）

氏名：　内田龍史

所属・職名：　尚絅学院大学　講師（社会学）

(2) 実践活動・研究の成果

今回の調査は、東日本大震災後の仮設住宅に絞って調査を行った。調査地は岩手県、宮城県、福島県と広範囲にわたった。大ざっぱに言うと、岩手県の湾岸の仮設住宅は浜単位で形成され、もしくは大規模ではあるが集落が集まった形の仮設住宅が多い。宮古市、大船渡市、陸前高田市などを巡ったが、仮設住宅の自治会はあるものの自治会長のなり手が少なく、自治会長を中心として仮設住宅がまとまっているというケースは少なかった。むしろ NPO の生活支援員が行政と協力（とりわけ社会福祉協議会）しながら仮設住宅を運営している様子が伺われた。一方福島県の湾岸部は、放射能被害の内陸部を含めて、もとの居住地を離れてた仮設が多く、いわき市に代表されるように、地域住民との軋轢に悩んでいる仮設住宅が多いように思われた。

今回は宮城県の避難所を中心として記述する。とりわけ被害が大きかったとされる石巻市と名取市の仮設住宅を比較することによって特徴をつかみたい。まず、石巻市は死者 3125 人、行方不明者 2770 人を出して、全市町村の中で最大の被害を記録した。災害後の被災者の居住状況は仮設住宅への入居者数 16523 人、仮設団地数１３４，借り上げ仮設住宅 14964 人である。また、在宅被災世帯が約 40000 人と多いのも特徴である。災害後 2 年余が経過し、被災者全体に見られる現状は、生活の見通しが立たず、閉塞感があること。被災生活が長期化しストレスが蓄積していることなどがあげられる。仮設住宅に関しては、入居形態が抽選であったため、コミュニティの形成が遅れ、近所づきあいがより希薄となっていることがあげられる。また、みなし仮設では支援や情報が届きにくいため社会的に孤立しがちである。また、在宅被災者の場合、他家族が地域に戻らないため世帯の孤立化が進んでいる。このように様々な遅れはあるが、これは他地域でも同じことである。石巻市は地域コミュニティの再編が進んでいない一方で、個人のレジリエンシィを背景として復興しようとする気運が強い。それは例えば南鹿妻にある「こころの家」などにも示されている。ここは、地域住民が自分たちの力で定期的にミーティングを開催し、互いに励まし合っている（建物はフランスの寄付）。

一方名取市は行方不明者を含めて 900 人余が亡くなった。仮設住宅は 7 カ所　800 世帯。借り上げは 900 余世帯が入居している。名取市の場合は地域コミュニティを崩さないように入居させ、各仮設には自治会長を選任し、仮設住宅におけるコミュニティは維持された。一方借り上げ住宅への支援は遅れたが、名取市では借り上げ住宅の近辺にサロンを設置し、コミュニティ支援員を置いて、コミュニティの維持に努めている。しかし、このサロンは災害後から 2 年近く経てから設置されたため、周知されておらず、コミュニティの維持に困難を伴っている。しかし、そのためもあってかもともとか、借り上げ住宅居住者の個人的リジリエンスは高くなっている。一方仮設住宅居住者は、地域コミュニティが維持されいて集団でのレジリエンスは強いが、復興計画の遅れと相まって、個人的レジリエンスは強まっていない。行政への依存度は強いが、市民自ら行政へ働きかけることはしない。

以上のように個人的レジリエンシィと集団レジリエンシィは地域性や市民力によっても異なり、相互作用を与え合っている。今後も 2 地域を比較して見ることにより、両者のダイナミズムを分析したい。

2013年　8 月 30　日

“東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究”会計報告書

活動・研究名称	東日本大震災における仮設住宅の研究――仮設住宅の規模，復興計画，集団活動が住民の意識，不安感等に及ぼす影響――	
代表者 氏名・所属	水田恵三	尚絅学院大学

1. 助成額	¥800,000
2. 支出合計	¥807,523
(1) 機器・備品	¥76,655
1) スピーカー	¥3,780
2)パソコン関連	¥5,601
3)ICレコーダー	¥24,491
4) 2穴パンチなど	¥3,115
5) パソコン関連	¥3,980
6) フィルム	¥1,645
7) パソコン関連	¥4,400
8) スマートペン	¥16,000
9) 関連	¥3,048
10) 関連	¥5,390
11) ATOK	¥3,225
12) メディア	¥1,980
(2) 消耗品	¥211,370
1) 書籍	¥186,147
2)郵送代	¥12,320
3)駐車場代　研究費では使用不可	¥11,300
4) 文具	¥1,603
(3) 旅費・交通費	¥490,518
1) 大船渡など	¥262,518
2) 名取市内、石巻など　５７回	¥228,000
3)	
(4) 謝金	¥28,980
1)手みやげ	¥28,980
2)	
3)	
(5) その他	
1)	
2)	
3)	

※ 領収書は各費目ごとにA4用紙に貼付し，通し番号を付けてください。